

小林誠、益川敏英、南部陽一郎の3氏

ノーベル物理学賞



発行所 秋田魁新報社
秋田市山王臨海町1番1号
〒010-8601
©秋田魁新報社 2008年



南部陽一郎氏



益川敏英氏



小林 誠氏

素粒子論で重要な業績

【ストックホルム7日共同】スウェーデンの王立科学アカデミーは七日、二〇〇八年のノーベル物理学賞を、素粒子論で重要な業績を挙げた小林誠・高エネルギー加速器研究機構名誉教授(六八)と益川敏英・京都大名誉教授(六八)、南部陽一郎・米シカゴ大名誉教授(ハセ)東京生まれ、米国籍の三人に授与すると発表した。

日本人のノーベル賞受賞は、〇二年の小柴昌俊東京大特別栄誉教授(物理学賞)と田中耕一島津製作所フェロー(化学賞)以来で計十五人、物理学賞受賞は七人となる。日本人が共同受賞するのは初めて。理論物理学は日本が得意とする分野で、一九四九年の故湯川秀樹博士、六五年の故朝永振一郎博士に次ぐ受賞。授賞式は十二月十日にストックホルムで開かれ、賞金一千万クローナ(約一億四千万円)が三氏に贈られる。

号外

購読申し込み

0120-13-1231

ホームページ

www.sakigake.jp

携帯サイト

mobile.sakigake.jp



詳しくは「秋田魁新報」本紙、当社ホームページをご覧ください。